潤邨
餅邨

鬼殺心角樽

13
2056
16

漢土の酩酊紅毛ドロレユ明年は生酔[illegible]
[illegible]酔
宜哉酒盃[illegible]匙牙代と呑つづけたれば年[illegible]
[illegible]酒毒とかれまで程[illegible]小信
[illegible]呑[illegible]も肉損とのたまひ[illegible]血[illegible]
の鄭泉も頭[illegible]遠[illegible]明[illegible]徳利[illegible]李白一斗
[illegible]紙[illegible]せ[illegible]ぐ[illegible]歌[illegible]
[illegible]擬[illegible]擬呑[illegible]乱[illegible]水[illegible]前[illegible]
中[illegible]鄭[illegible]下戸の達[illegible]
ふの言[illegible]酔中之酔[illegible]
四方[illegible]赤一盃上戸と誠め山[illegible]

たぐ[illegible]見世[illegible]おいて

寛政八丙辰春

山東京傳題

切利天の宮城
帝釋の住ところ
と喜見城とうつけいう
山不酒旗星とつ星あり
世りせかの酒のれうさぞうの
ゆるゆるよさけふきひとりのめと
よいさいわいとのふそもく
さけのうんどうとそうぶぬる
ふ裏の角玉のことも
儀秋とつふのの酒
をつの角こすもむ
角そのあちこちひのひる
かうりそして人ぶんそうすめ
うりそしてこしとやくむ素河れて
又酒むわわすかちの酒ハ美帝の
より知りをつり時除こけ
と天の美酒ありそわの作氏ハ
人の長寿よ祝とこをを
ひとりまつりよ山酒旗星

こんれいのごしさうび
のせきうゆーしうけ
ゆりさけぶのま
せそろそろとそろご
されやうに

さをつけろを
しそろぶと
ろて人の
につこれあと
らねゆうにさぶ
つのろよ
山やーえでも
むーやうにぶ
つけろくとりつ
ゆへさけぶのむ
こぶろまくこ
つのやーこ
ひとをぶ
うん

酒
酒
酒
酒

おりりくトロ早の酒神とぶ天上に
しびのびりそて人ふ酒をすぐれ
そのれりんふうとをいはあ
ゆひけこのおこのこうぶこふツ
じゆこうらくにつすこ
でにすこいよこうひこふこうと
つきれいふのりぶこうこ
さこのこうしりつこそくや
のりりくこうのこうこりりかこん
つのうこうぐこいふこぶこの
りうこりりこのこりれり
山酒旗星ちこぶこ人
くこりふこりぶのんでりん
でたぐくこさこしこうる
て身のくこうこりり
山こぶあにりこくこん
たくこふくまこぶこん
ぶこん六ぶんぶんのこぶこん
つりこんちんぶこのぶのこ
つぶこにいこう
ゆこうぶべー
つーしべー

酒
氣
酒
氣

氣
酒
酒
酒
酒
酒
酒

壽
氣
邪
酒
酒
湿
雨

酒
酒

心
氣
酒
心

酒
酒
脾胃
肝

酒
酒
酒
酒
さけの神

酒
酒
三合
五合
一升
二升
酒の神

七

酒
酒
酒

酒
酒
酒

酒
心
気
酒
現金
酒
御小間物類

酒
鮒
鮒
酒

酒
雲
氣
酒
酒
鮒
鮒

酒の神

酒

酒

心

意

酒

酒

仁

義

禮

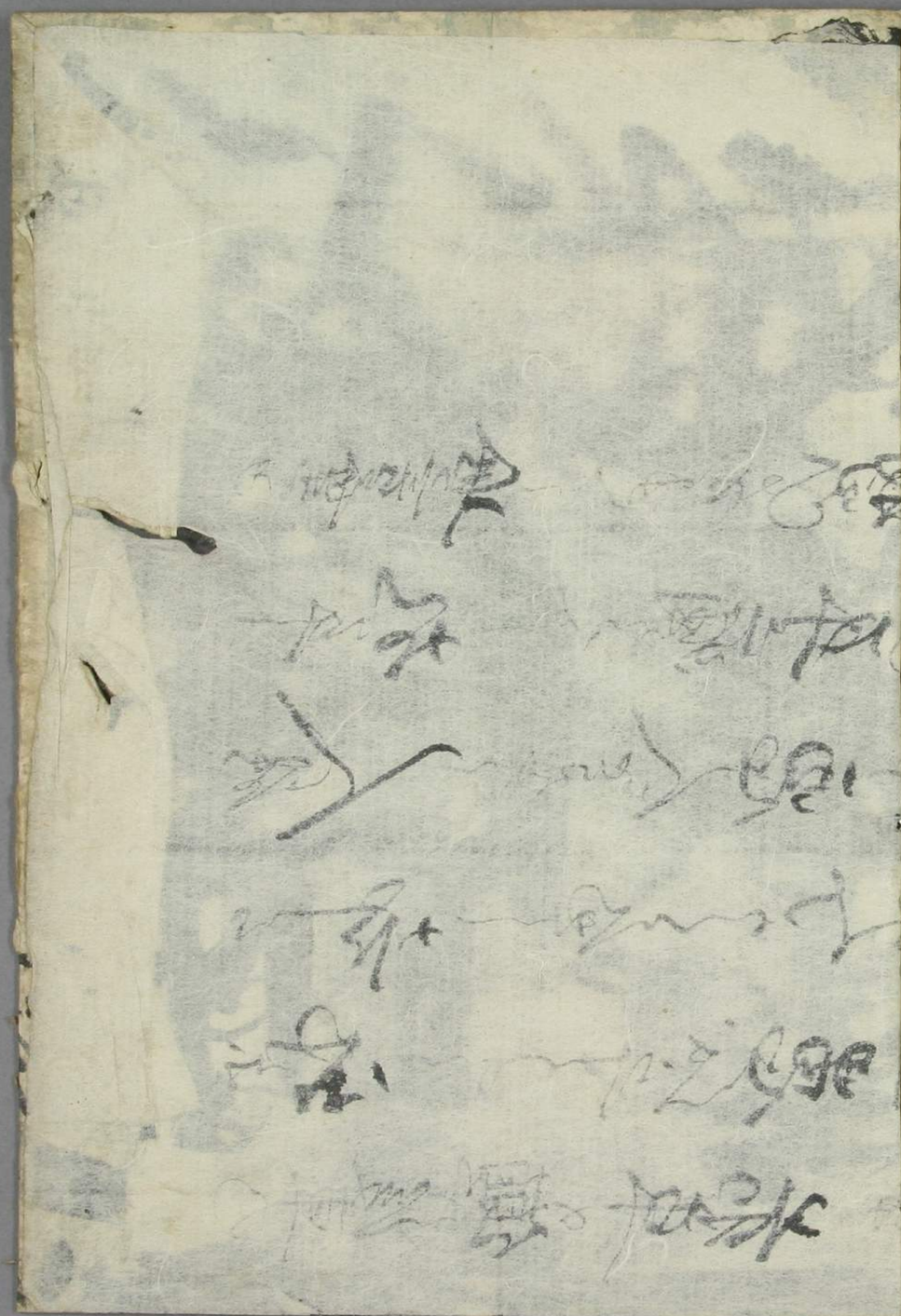
智

信

酒

酒

袖の梅
あう

槐普唐宋元明小詩
不許量酒入草堂
十海

京傳作